

取組：確かな学力の育成と個に応じた教育の推進

当該地域の特性等を踏まえた課題分析の視点

全国学力・学習状況調査の結果から、生徒が聞いたり読んだりしたことを基に、自分の考えをまとめて英語で述べる活動が十分行われていないことが分かる。教員が表現を示し過ぎず、生徒自身で考え、言葉をつむぐ姿勢を育むような指導が求められる。スピーキングテストの結果には英単語や短い語句で表現している生徒が多いことが示されており、文で考えを伝える習慣をつけるような指導を継続的に行うことが求められる。

Plan

■取組計画

- ・ 5月・11月…指導主事会にて県内の実態や課題、施策説明
- ・ 7月…小中連携型CAN-DOリストの作成依頼
- ・ 6月…スキルアップ事業開始
- ・ 9月～2月…AIを活用した英語指導開発事業希望調査・実施
- ・ 9月・11月…主任会、研究発表会での本事業施策の趣旨説明
- ・ 1月～3月…英語スピーキングテストの実施・結果説明会

■体制

- ・ 県内全市町教育委員会の指導主事が集まる 指導主事研修会事務局 と研修内容の連携
- ・ 大半の教員が加盟する 教科研修団体 と連携体制の構築
- ・ 外部資格検定試験業者 との年間を通じた連携体制の構築

Do

■スキルアップ事業

優れた指導技術をもつ教員の公開授業及び研究協議後、指導者の大学教授等に授業改善に向けた具体的な指導・助言をいただく。また、その後実施するワークショップにおいて、小中学校教員の実践的な英語指導力の向上を図る。

■AIを活用した英語指導開発事業

タブレット端末に搭載されたカメラで撮影した画像から、手書きの英作文のテキスト化機能や文字認識後の英文読み上げ機能、英文添削機能、生徒の英語の点数化機能を有するアプリケーションを活用し、目標目的を共有した上で、個別最適な学びを推進する。

■小中連携型CAN-DOリストの作成

平成30年度から3年間、県独自に実施した英語教育充実のための小中連携事業を通して構築した小中連携体制の維持及び小中の円滑な接続を図るため、県内全公立中学校がCAN-DOリストを作成する。校種間での到達目標及びそれに向けた指導方法、評価方法等の情報共有を図るため、中学校校区単位で小中連携型CAN-DOリストを作成する。

Check

■成果目標1：小中連携の実施率の向上

測定指標：小中連携の状況及び取組内容に係る各項目の数値の向上

■成果目標2：CAN-DOリストの見直しと利用率向上

測定指標：CAN-DOリスト形式の学習到達目標に係る項目の数値の向上

■成果目標3：中学校パフォーマンステスト（ライティングとスピーキング）の実施と学習評価

測定指標：パフォーマンステストに係る項目の数値の向上

	小中連携			CAN-DOリスト			パフォーマンステスト		
	情報交換	交流	カリキュラム作成	設定	公表	達成状況	1年生	2年生	3年生
H30	82.3	82.3	22.6	98.5	4.5	39.5	87.7	84.6	83.3
R1	79.7	84.4	32.8	100	6.1	30.3	86.2	92.3	81.5
R3	81.0	36.2	50.0	100	23.1	100	90.8	92.3	90.8

英語教育実施状況調査の結果(H30-R3)から抜粋 ※R3は未確定値

Action

■成果と課題

小中連携については、公開授業の代わりに小中連携型CAN-DOリストの共有に伴う情報交換が主になっている。今後、中学校のパフォーマンス評価のノウハウを生かした小学校での学習評価について、実践を積み重ね、好事例を共有していきたい。また、生徒が自分の考えをまとめて英語で述べる言語活動を年間を通して計画的に設定しているか、県調査質問紙の項目を増やし成果を測る。

成果の普及

- 本年度の事業の成果と課題について、経年変化を踏まえて整理・分析し、県内各小中学校の教員が悉皆で参加する教育課程運営改善連絡協議会において、指導改善の在り方について周知する。